

原稿の書き方

サービス 太郎^{1*}, サービス 次郎², サービス 三郎²

¹ サービス研究科, サービス大学

² サービス研究所, サービス学会

*Corresponding Author: Tel: 03-1456-7890, E-mail: author@serviceology.ac.jp

Abstract

These instructions explain how to prepare your paper for the Journal of Serviceology so that its appearance is clear and consistent with the other papers in the Journal. They include guidance on layout, illustrations, text style and references. They are presented exactly as your paper should appear. It is highly advised to use this template to prepare your paper in \LaTeX .

Keywords

Serviceology, Paper, Instructions (3-5 keywords)

1 はじめに

このテンプレートの表題（副題）、著者名、本文などはあらかじめ本会指定のフォントサイズなどの書式が設定されている。この書式を崩さずに入力すれば、文字数、行数など定められた体裁で論文を作成することができる。

原稿 1 編当たりのページ数は、口頭発表用フルペーパーは 6-8 ページまでとする。本文の記述はできるだけ簡潔・的確に整理することが望ましい。また、原稿にページ番号を挿入しないこと。

2 レイアウトとスタイル

2.1 スタイルの概要

ページ設定

余白は、上 20mm、下 18mm、左右 17mm とする。

タイトルと著者情報

タイトルは、ゴシック体・Arial 16 point 太字とする。著者名は明朝体・Serif 系（Century, Times New Roman など）12 point 標準、所属は明朝体・Serif 系で 10 point とする。

Abstract

原稿には本文の前に英文抄録を載せる。英文抄録には研究目的と結論を必ず記述する。長さは 150-200 語程度で、途中で改行をしない。フォントは、Arial 10 point 標準とする。

Keywords

キーワードは、アブストラクトの直下に英語で記載し、3-5 語句とする。フォントは、Arial 10 point 標準とする。

本文

本文は 2 段組とし、段の幅を 85mm とする。フォントは、明朝体・Serif 系（Century, Times New Roman など）10 point 標準とし、最初の行は 1 字下げする。

また、文章の区切りには全角の読点「、」（カンマ）と句点「。」（ピリオド）を用いる。

2.2 見出し（章、節、項）

見出しの体裁は、表 1 に示す通りである。また、見出しがページの最後の行にならないようにする。

3 図表

3.1 表

本文中では、表 1 のように日本語で書く。キャプションは、表の上に記載し、フォントは、明朝体・Serif 系（Century, Times New Roman など）で 10 point 中央揃えとする。

3.2 図

本文中では、図 1 のように日本語で書く。写真は、図として扱う。キャプションは、図の下に記載し、フォントは、明朝体・Serif 系（Century, Times New Roman など）で 10 point 中央揃えとする。



図 1 図題の例

4 原稿提出

原稿はPDFファイルで、サービス学会第8回国内大会 演題登録サイト（下記）より提出する。

【URL】 <https://sfs.confite.atlas.jp/login>

原稿提出期限：2020年2月20日

5 謝辞

本テンプレートファイルのスタイルを利用すると、各々の項目の書式が自動的に利用できるのも便利である。

6 参考文献

引用した文献は、英文誌・洋書の場合はアルファベット順、和文誌・和書の場合は50音順で本文末尾にまとめて記載し、本文中では（Vargo and Lusch 2004）のように参照する。フォントは、明朝体・Serif系（Century, Times New Roman など）8 point 標準とする。

参考文献の記述例は下記の通りである。

Vargo, S. L., and Lusch, R. F. (2004). Evolving to a new dominant logic for marketing. *Journal of marketing*, 68(1), 1-17.

Lusch, R. F., and Vargo, S. L. (2014). *Service-Dominant Logic: Premises, Perspectives, Possibilities*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.

表1 表題の例

	章	節	項
フォント	ゴシック体 Arial 10 point	ゴシック体 Arial 10 point	ゴシック体 Arial 10 point
スタイル	太字	太字	斜体
番号	1,2,3,...	1.1,1.2,1.3,...	なし
間隔	段落前1行 段落後3 points	段落前3 points 段落後3 points	段落前3 points 段落後3 points